かちまいスポーツ

全道高体連

全道高校体育大会は8日、各地で競技を行った。ボクシング北北海道のバンタム級決勝で三谷諭史（幕別2年）が見事な猛攻で優勝してインターハイ出場を勝ち取った。ウエルター級の南北決戦で鎌田卓（白樺学園2年）は敗れたものの健闘が評価され、全国出場を決めた。ウエートリフティングで十勝勢初の出場を果たした男子62㌔級の佐藤恭章（更別農2年）は3位に入った。サッカー十勝代表の帯北、帯柏葉は11日からの全道大会に挑む。　（大野篤志、丸山一樹）

【北大会・バンタム級決勝】三谷諭史（左、幕別）の左ストレートが相手のあごを的確にヒット。圧倒的な力の差を見せ付けて快勝した

ボクシング

北北海道バンタム級

三谷（幕別2年）インターハイへ

ウエルター級　鎌田（白樺学園2年）も出場

（8日・道立総合体育センター）各階級の決勝を行った。北北海道のバンタム級で三谷諭史（幕別2年）は1年生の相手に力の差を見せ付ける猛攻を演じ、1ラウンド1分2秒に相手セコンドからタオルを投げ込ませての棄権勝ち。初のインターハイ（8月、茨城県）出場を決めた。南北海道のチャンピオンと全道一を決める南北決戦は22日に行われる。不戦勝で優勝が決まったウエルター級の鎌田卓（白樺学園2年）は南北決戦を行い、全国3位の強豪相手に健闘。判定で敗れはしたものの、その試合ぶりが認められインターハイ出場権を獲得した。（大野篤志）

【北大会】

◇バンタム級▽決勝

三谷（幕別）1R1分2秒棄権勝ち　近藤（枝幸）

【南北チャンピオン戦】

◇ウエルター級

高橋（札工定時）判定　鎌田（白樺学園）

三谷、22日に南北決戦

力の差は歴然だった。立ち上がりにグローブを合わせると相手の近藤健太（枝幸1年）が公式戦初試合と見抜き、立ち上がりからジャブ、左右のワンツーのラッシュ。次々とパンチを繰り出し、相手が頭を抱え込んでひるんだところで最初のスタンディングダウンを奪った。再開後、容赦ない猛ラッシュを浴びせ、1分2秒、戦意喪失が見られて相手セコンドからタオルが投げ込まれた。

『練習嫌い』が練習に意欲

全道王者へ闘志燃やす

試合前、小学5年生から通う帯広ボクシングジムの中橋邦夫会長から「前に出ろ」と何度も繰り返し言い聞かせられた。前日の1回戦では、内容こそ一方的だったがポイントは3−2のきん差での判定勝ち。「動きが悪すぎる」と怒られた。「今日は怒られないように最初から飛ばしました」とひょうひょうとした表情で笑う。

パンチ力を身に着け、スピード、スタミナも十分だが、同門の鎌田卓（白樺学園2年）とは対照的に自他共に認める練習嫌い。今回も練習不足が初戦に現れたが、22日に行われる全道チャンピオンを決める南北決戦の相手の南チャンピオン宮下孝（札工全日3年）は前年も全道を制している強豪。「勝てる相手じゃない」とはぐらかしながらも「ベストの試合をしたい。腰の動きのスピードを増したい。練習しなければ」と練習嫌いが練習への意欲を見せた。

中橋会長は「高校生は1カ月もあれば大きく成長する。フックの打ち方を修正し、ポイントを取るボクシングスタイルを身に着けさせたい」と目の色が変わった三谷の様子を喜んだ。

スポーツの日程・記録は▼FAX0155-25-2700

掲載写真の申し込みは▼TEL0120-25-9410

「練習の虫」全国デビューに期待

○…北大会ウエルター級は鎌田卓（白樺学園2年）と旭工の選手の2人のみの出場だったが、相手が直前の血液検査でドクターストップが掛かり、不戦勝での優勝。インターハイ出場は試合内容で選考されるため、鎌田にとっては南大会チャンピオンとの南北決戦が唯一の選考基準となった。相手は3月に行われた全国高校選抜大会兼ジュニアオリンピックカップ3位の高橋秀一（札工定時3年）。

「5月の全道合宿で歯が立たなかった相手だが、何とか破りたかった」とゴングと同時に持ち味の猛ラッシュで気持ちの入ったパンチを繰り出した。しかし、相手は足を使ってのアウトボクシングに徹し、上下に打ち分けた的確なパンチに鎌田のスタミナが奪われた。

結果は0−5のポイント負け。「スピード、手数は相手が一枚上だった」と完敗を認めたが、最後まで下がらない姿勢は選考検討委員会にも認められ、インターハイ出場権を得た。毎日3、4時間も練習に没頭する練習の虫。指導する中橋邦夫帯広ボクシングジム会長は「あまりいないサウスポーファイター。スタミナが付けば全国でもいい結果を残せる」と鎌田の全国デビューを期待した。

【南北決戦・ウエルター級】強豪相手に持ち味の猛ラッシュを仕掛ける鎌田卓（右）

重量挙げ

佐藤3位に

（8日・士別市立総合体育館）男子と女子（オープン参加）の各級を行った。男子62㌔級に出場した更別農2年の佐藤恭章（たかゆき）はスナッチ・ジャークの合計105㌔で3位に入ったが、全国大会出場権は逃した。

サッカー

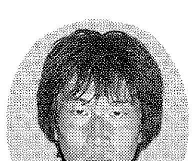
帯北×函大有斗　帯柏葉×札幌東

管内2校、11日に初戦

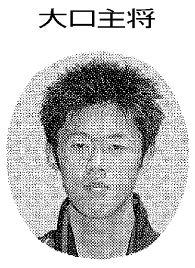
インターハイ出場を懸けたサッカーの道選手権が11日から、夕張市平和運動公園で行われる。昨年、準々決勝で涙をのんだ帯北は初日正午から函大有斗と、帯柏葉は同日同時刻に札幌東と対戦する。27チームが2つの代表枠を目指す。

昨年、駒大苫小牧に敗れて雪辱に燃える帯北は十勝支部予選では4試合を無失点で勝ち上がる完ぺきな内容。飯塚誠監督も「思い通りの試合運び。いい形で道大会に臨める」と、自信を見せる。道予選では支部予選と同様、大口修央主将（3年）らの安定したDFと、斉藤翼（2年）ら中盤のプレーヤーから田中康平（2年）ら攻撃陣に正確にボールをつなげるサッカーで勝負する。大口主将は「支部予選ではちぐはぐな守備や攻撃があった。道大会では声を出し合い各ポジション同士の連携強化を図る」と、決戦を前に気を引き締める。昨年、全国高校選手権道予選決勝でしのぎを削った今大会シード校の室蘭大谷とは、順当に勝ち進めば決勝で顔を合わせる。

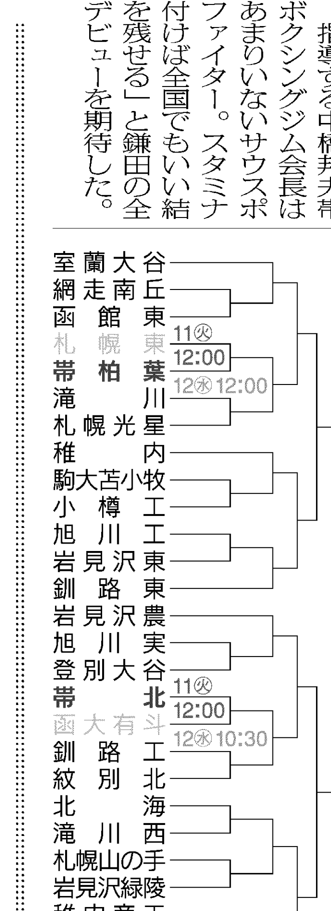
2年ぶりに道大会へこまを進めた帯柏葉は中盤の米田悠太郎（3年）らを起点に早いボール回しで前線の草野達也（2年）らへつなぐサッカーを心掛ける。松久芳男監督も「道大会に出てくるすべてのチームは、うちより実力は上。じっくりボールを回していても突破口は見つからない」と速攻を目指す。また、支部予選決勝で帯北を1失点に抑えたDF陣も道予選を前に自信をつけた。岩崎澄央主将は「初戦の札幌東戦から全力で戦いたい。全員サッカーで1つひとつ勝ち進みたい」と、闘志を見せる。



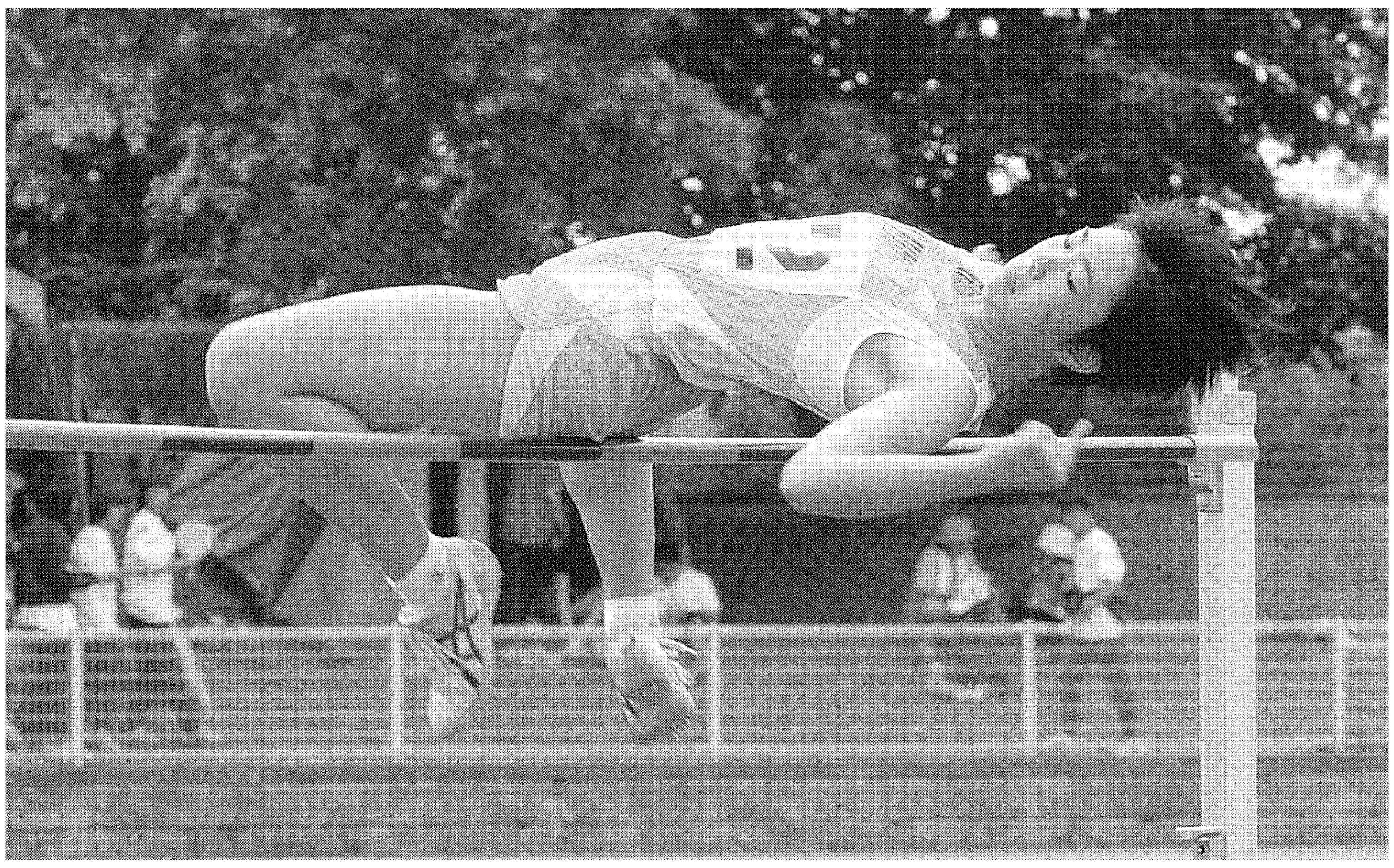
大口主将



岩崎主将



女子走り高跳び　長平　清水3年　男子二百㍍　谷中　帯三3年　全国へ



1㍍57を跳んで全国大会の切符を手にした長平奈々（清水3年）

福島（糠内）自己ベストでV

2年女子百㍍

中学通信陸上十勝大会

陸上競技の全日本中学校通信陸上競技大会十勝大会1日目が8日、帯広の森陸上競技場で行われた。女子走り高跳びは長平奈々（清水3年）が全国大会参加標準記録の1㍍57をクリアして優勝し2年連続で全国大会出場を決めた。男子二百㍍でも谷中啓祐（帯三3年）が同参加標準記録の23秒04を大きく上回る22秒81（無風）をマークして全国出場を決め、優勝に花を添えた。女子2年百㍍では福島千里（糠内2年）が2年生ながら、準決勝で同標準記録の12秒74を射程内にとらえる12秒94（向かい風0・1㍍）をマーク。決勝も12秒95（追い風0・8㍍）で優勝した。（丸山一樹、金野和彦）＝記録は後日掲載します。

試技3回目で標準記録クリア

鍛えた精神力　重圧“粉砕”

長平

1㍍57を3回目の試技でクリアした瞬間、拍手でたたえる観客席へガッツポーズでこたえた。

「2年連続全国大会出場が最低目標だった」。今季は昨季以上の成績を残さなければならないというプレッシャーが常にのしかかった。いつも平静を保っている長平だが、その重圧によって受けたストレスは大きかったに違いない。

1㍍50、55を1回でクリアしトントン拍子で1㍍57を迎えたが、2回のチャンスを生かせず追い込まれた。しかし「3回目を失敗する姿が一瞬頭をよぎった。でも、精神的に追い込まれた場面を想定した練習もやってきたので、必ず成功できると、最後は信じた」と立て直しを図り、見事にラストチャンスをものにした。

試合で起こりうる、あらゆる場面をシミュレーションした練習が土壇場になって実を結んだ。1㍍57を成功後、失敗はしたが昨年の全国中学ランキング8位に当たる1㍍61にも挑戦した。次の目標は全国入賞だ。

参加標準記録破れず残念

男子走り幅跳びを6㍍18（向かい風0・9㍍）で制した額田潤（新得3年）の話　全国大会参加標準記録（6㍍50）が破れなくて残念。7月26−28日にある全道中学陸上で再度、記録突破を狙う。

夢がかない会心の笑み

○…自己記録を一挙に0秒45更新して男子二百㍍で全国大会行き切符を手にした谷中啓祐（帯三3年）は「目標にしてきた全国大会。夢がかなって本当にうれしい」と会心の笑み。昨年、大井秀行（札内3年、現帯柏葉1年）がマークした22秒78の十勝記録にも肉薄した。

「第4コーナーを気持ち良く抜けることができた」と、カーブ出口でうまく加速に乗ると、そのままゴールを駆け抜けた。22秒81は昨年度全国中学ランキング59位。しかし「全道大会では更に記録更新を目指す。全国大会では決勝進出を果たしたい」と向上心を見せる。

独特の力強いピッチ走法で全国の強豪たちに挑む。

男子二百㍍を22秒81で制し全国大会出場を決めた谷中啓祐（帯三3年）

女子2年百㍍を12秒95で制した福島千里（糠内2年）。準決勝でも12秒94の好タイムをマーク

自分でもびっくり

女子2年百㍍を12秒95で制した福島千里（糠内2年）の話　これまでの自己ベストは13秒51。準決勝で出した12秒94には自分でもびっくり。これからは全国大会を目指して頑張りたい。

陸上日本選手権　女子四百㍍

木田（帯南商高出）2位

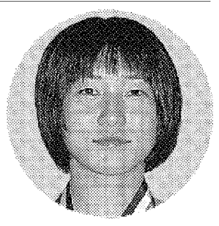
アジア大会代表へ前進

10月に韓国で行われるアジア大会の選手選考を兼ねた陸上の第86回日本選手権大会第2日が8日、金沢市の石川県西部緑地公園陸上競技場で行われ、女子四百㍍で木田真有（福島大2年−帯南商高出）が54秒01（道新記録）の自己ベストで2位に入り、アジア大会メンバー入りに向けて大きく前進した。

（15面に関連記事）

木田がアジア大会の日本代表に選ばれれば十勝管内では1966年に円盤投げで出場した角田悠子（当時リッカー−日体大、帯大谷高出）以来、36年ぶりの快挙。代表選手の発表は8月9−12日に行われる第14回アジア選手権大会以降となる。

予選を自己ベストの54秒61で通過した木田は3番目のタイムで決勝へ。決勝では最終コーナーを回って5番手と、やや劣勢に立ったが、最後の直線で驚異の巻き返しを図り、一挙に3人をかわした。ゴール前5㍍では日本記録保持者の柿沼和恵（ミズノ）をも抜き去った。優勝は53秒29で、四百㍍障害の日本記録を持つ吉田真希子（福島大TC）だった。（丸山一樹）



木田真有

十勝CCの山貫4位発進

道アマチュアゴルフ

【由仁】ゴルフの第52回道アマチュア選手権決勝競技兼第57回国体成年男子競技最終予選会（道ゴルフ連盟など主催）初日は8日、札幌GC由仁コース（7031ヤード、パー72）で第1ラウンドを行い、山貫則夫（十勝CC）がトップと2打差の1オーバーの73（36、37）で4位と好発進した。鎌田敏雄（帯広CC）も77（38、39）の19位タイと好位置に付けた。71の1アンダーをマークした深草元彦（日体大）、岡昌史（パブリック協会）が首位に並んだ。

大会は11日まで4日間の日程で行われ、9日の第2ラウンドで、36ホールトータル60位タイまでが第3、第4ラウンドに進出できる。

（2位以下関係分）

◇第1ラウンド▽順位＝

①深草元彦（日体大）71（37、34）①岡昌史（パブリック協会）71（36、35）④山貫則夫（十勝CC）73（36、37）⑲鎌田敏雄（帯広CC）77（38、39）(56)大山剛史（帯広国際CC）80（39、41）(165)中山喜裕（帯広CC）91（44、47）